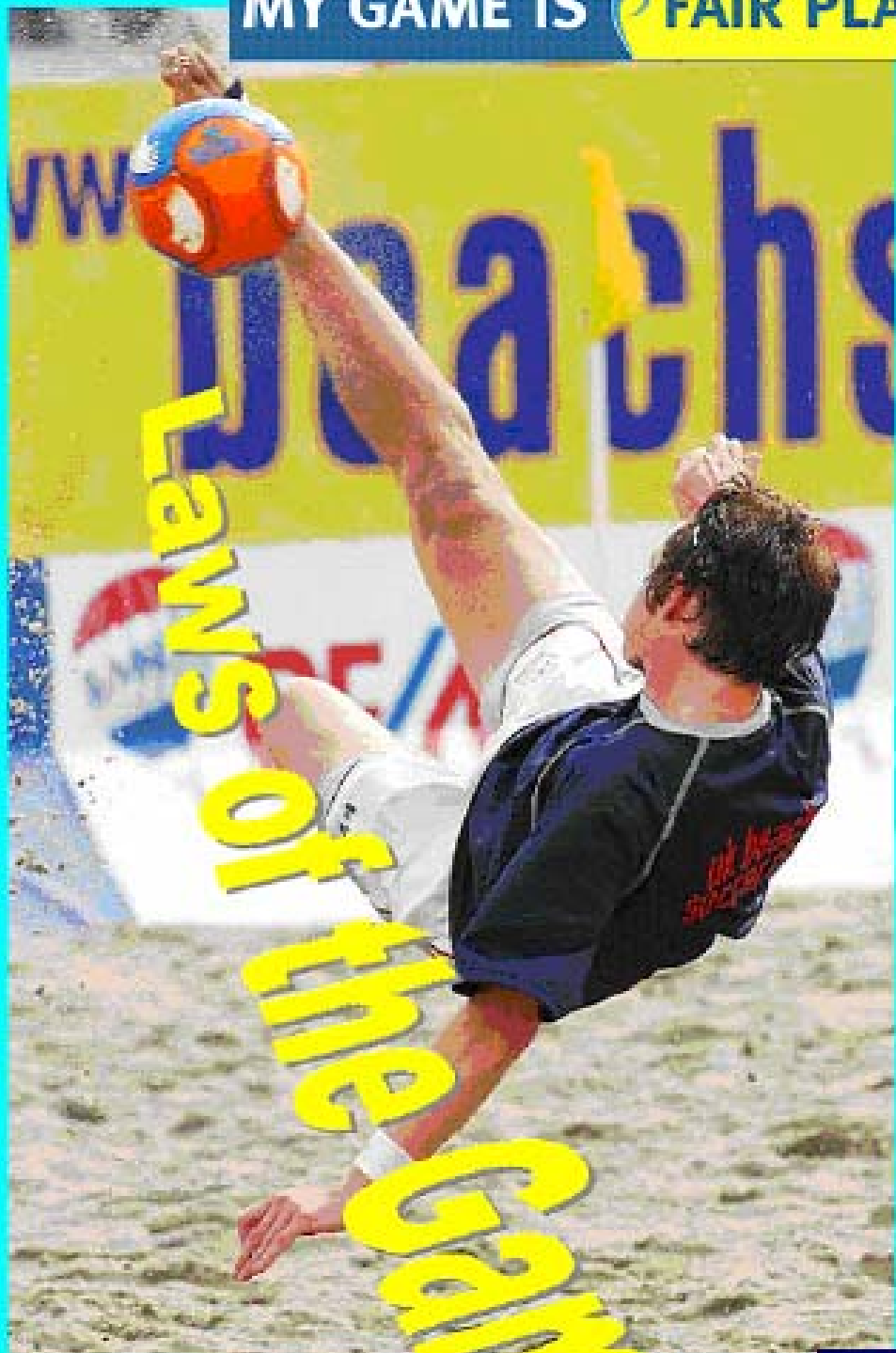


MY GAME IS  FAIR PLAY



Laws of the Game

JANUARY 2006



ビーチサッカー 競技規則 (2008年度全国大会用)

2005年1月
国際評議会 (I F A B) 承認

全部、一部にかかわらず、この競技規則を F I F A の許可なしに複製、翻訳することはできない。

発行：国際サッカー連盟 (Hitzigweg 11, CH-8030
Zurich, Switzerland)

競技規則に関する注解

修正

関係するメンバー協会の合意が得られており、また基本原則が尊重されていれば、16歳未満の競技者、女性、年長者(35歳以上)および障害のある競技者の試合では競技規則の適用にあたって修正を加えることができる。

以下の一部あるいは全てに修正ができる。

- ・ ピッチの大きさ
- ・ ボールの大きさ、重さ、材質
- ・ ゴールポストの間隔とクロスバーのグラウンドからの高さ
- ・ 試合時間
- ・ 競技者の数

これ以上の修正は、国際評議会の同意があった場合にのみ認められる。

男性と女性

審判、タイムキーパー、競技者、役員について、競技規則ではすべて男性で表記されているが、これは簡略化のためであって、いずれも男性、女性の両方に適用されるものである。

(注:日本語訳には性別はない)

内容

競技規則

第1条	ピッチ
第2条	ボール
第3条	競技者の数
第4条	競技者の用具
第5条	主審および第2 審判
第6条	タイムキーパーおよび第3 審判
第7条	試合時間
第8条	プレーの開始および再開
第9条	ボールのインプレーおよびアウトオブプレー
第10条	得点の方法
第11条	ファウルと不正行為
第12条	フリーキック
第13条	ペナルティーキック
第14条	ボールインバウンド
第15条	ゴールクリアランス
第16条	バックパスルール
第17条	コーナーキック
第18条	試合の勝者を決定する方法

2008年度全国大会用競技規則

第1条 ピッチ

ピッチの表面

ピッチの表面は砂からなり、水平でなければならない。また、より平らで同質であり、競技者が負傷する可能性のある石や貝、その他の物体は取り除かななければならない。

国際競技会では、細粒の砂で、少なくとも40cmの深さがなければならない。砂は、荒くなく、また石や危険なものが無くなって適切になるまでふるいにかけるが、埃となる、あるいは皮膚に付着するほどまでに過度に細かくなってはならない。

大きさ

ピッチは長方形とする。タッチラインの長さはゴールラインの長さよりも長くなければならない。

長さ: 35－37m
幅: 26－28m

ピッチのマーキング

ピッチはラインでマークする。エリアの境界線を示すラインはそのエリアの一部である。

長い方の2本の境界線をタッチライン、短い方の2本の境界線をゴールラインという。

すべてのラインの幅は10cmである。ラインは、砂と見分けるために青色で切れにくい材質のテープで設置する。ラインは特製のコーナー連結器とサンドアンカーを用いて各コーナーに、またゴールポストに付帯するゴム環を用いて固定する。

ピッチは、2本の赤いフラッグポストによって画される仮想のハーフウェーラインで半分に分けられる。

仮想のラインの中央がキックオフのための位置である。

ペナルティーエリア

ペナルティーエリアは、ピッチの両エンドに設置され、エンドラインから9mに設置された2本の黄色いフラッグポストのところに引かれたエンドラインに並行な仮想ラインで画される。

ペナルティーエリアのライン上の中央で、両ゴールポストから等距離のところに仮想のペナルティーマークを設置する。

フラッグポスト

ピッチの周りに、先端のとがっていない高さ1.5m以上で、旗のついたフラッグポストを立てる。フラッグポストは折れることないプラスチック製で、弾力性があり、耐水性のものとする。

ピッチの両側に4本の黄色のフラッグポストを立て、ペナルティーエリアをマークする。ピッチの各コーナーに赤色のフラッグポールを1本ずつ立てる。さらに、2本の赤いフラッグポストをタッチライン両側に1本ずつ立て、仮想のハーフウェーラインを設置する。

各コーナーに立てたフラッグポスト以外のフラッグポストはすべて、タッチラインから1m離してピッチの外側に固定する。

交代ゾーン

チームベンチは、タッチラインの後方で、タイムキーパーの机の両側のフリースペース隣に位置する。

交代ゾーンは、競技者が交代のため交代ゾーンでピッチを出入りする場所で、チームベンチとタイムキーパーの机の間に位置し、長さはハーフウェーラインとタッチラインの交点とチームベンチとの間の距離と同じく5mとする。タイムキーパーの机の前のフリースペースは、空けておく。

ゴール

ゴールは、それぞれのゴールラインの中央におく。ゴールは、それぞれのコーナーから等距離に垂直に立てられた2本のポストとその頂点を結ぶ水平なクロスバーとからなる。ゴールは蛍光性の黄色に塗る。

ポストの間隔(内側間)5.50mで、クロスバーの下端からピッチ面までの距離は2.20mである。

ゴールポストとクロスバーは同じ幅と厚さで、20cmを超えない。

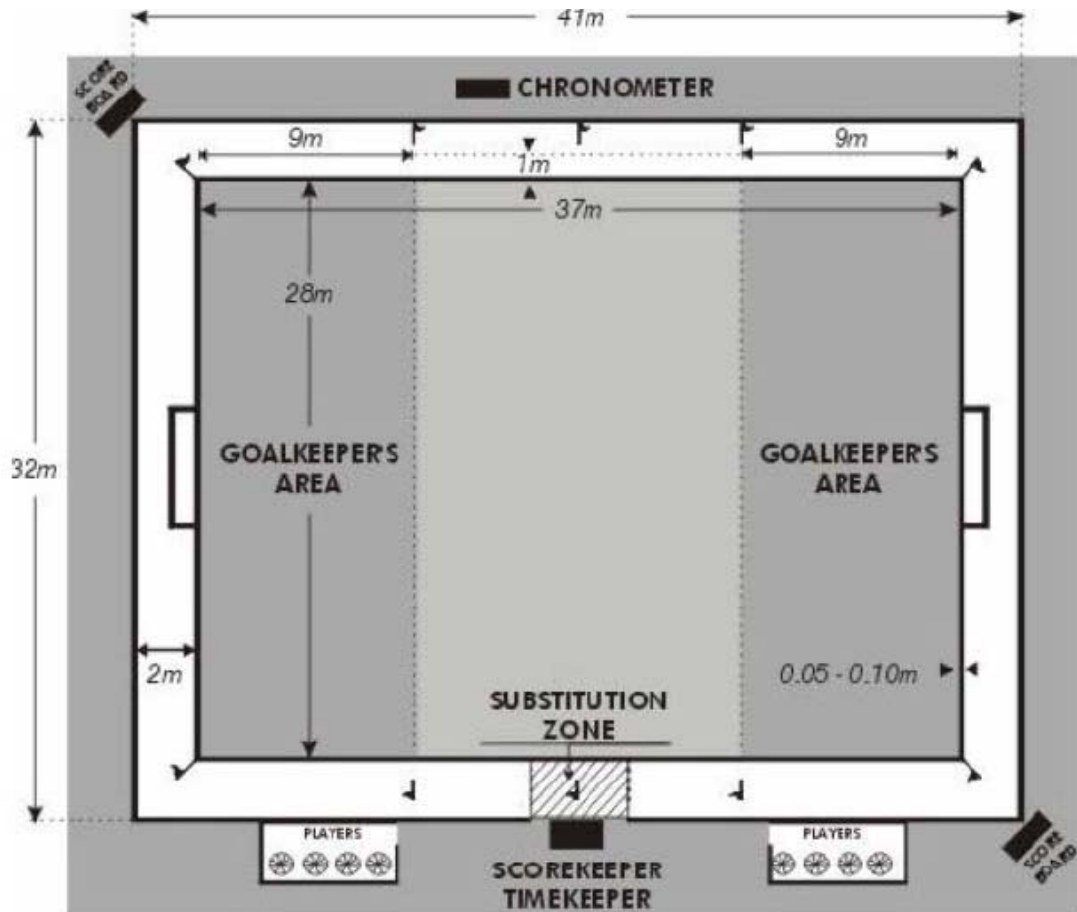
麻、ジュートまたはナイロン製のネットをゴールポストとクロスバーの後方に取り付ける。

垂直のポストの下部には、安全上の理由から、ポストを固定するために支えとなる板を砂の下に付けるものとする。長さ1.5mの横棒2本を砂と同じレベルにおき、クロスバーまたは両端にフックと締め紐がありプラスチックで保護されたチェーンで連結する。クロスバーも同様に地面に固定する。

安全

ピッチは、幅1mから2mの場周セキュリティー・ゾーンで囲む。

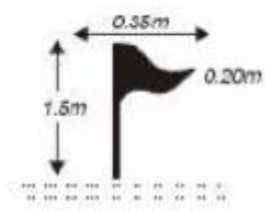
ゴールは、移動式のものでも良い。しかし、プレー中は、地面に確実に固定する。



THE GOAL



FLAGS



第2条 ボール

品質と規格

ボールは:

- ・ 球形
- ・ 皮革またはその他の適切な材質で、摩損や形くずれがなく防水加工したもの
- ・ 外周が 68cm 以上 70cm 以下(5号球)
- ・ 重さが試合開始時に 440 グラム以下 400 グラム以上
- ・ 空気圧が海面の高さで 0.375~0.8 気圧のものである。

欠陥が生じたボールの交換

試合の途中でボールが破裂する、あるいは欠陥が生じた場合:

- ・ 試合を停止する。
- ・ (競技規則第8条に従って)試合を再開する

インプレー中ではなく、キックオフ、ゴールクリアランス、コーナーキック、フリーキック、ペナルティーキックまたはキックイン/スローインのときにボールが破裂する、あるいは欠陥が生じた場合:

- ・ 競技規則に従って試合を再開する。

国際競技においては、最低12個のボールで試合が行うものとし、プレーのためのボールが1個で、残りは8人のうち場周ゾーンの各コーナーに立つ4人のボールボーイが保持する。

試合中にボールが場周ゾーンから出たときは、ボールを交換するものとする。直近のボールボーイがボールをプレーに戻すことを認められた競技者に渡すものとする。

決定事項

1. 競技会で使用する公式ボールは FIFA に承認を受けなければならない。
2. 競技会の試合においては、第2条に規定されている最低限の技術要件を満たしているボールのみの使用が認められる。

FIFAの競技会の試合、各協会主催の競技会の試合において使用するボールの承認は、以下の3つの記号のいずれかがボールに付いていることを条件として行う。

公式の“FIFA承認”のロゴ

または

公式の“FIFA検定”のロゴ

または
“国際試合ボール基準”を示すマーク

ボールに付けられたこれらの記号は、第2条に規定される最低限の仕様に加えて、それぞれのカテゴリーの規定の技術的要件を満たしていることが公式にテストされて証明されていることを示している。それぞれのカテゴリーごとの個別の追加要件のリストは、FIFAが発行する。テストを実施する検査機関は、FIFAによって選ばれる。

各協会は、自らの競技会において上記の3つの記号のいずれかを付けたボールの使用を義務付けることができる。

その他のどの試合においても、使用されるボールは、第2条の要件を満たしていなければならない。

各協会が競技会において“FIFA承認”または“FIFA検定”のロゴを付けたボールの使用を義務付ける場合、ロイヤリティが不要の“国際試合ボール基準”のマークを付けたボールの使用も許可しなければならない。

第3条 競技者の数

競技者

試合は、最大5人からなる2つのチームによって行われ、チームの競技者のうち1人は、ゴールキーパーである。交代要員の数は5人までとし、競技の規定に従う。

交代の手続き

競技者の交代は、FIFAまたは連盟レベルで行われる公式競技会規定のもとで行われるすべての試合で認められる。

交代要員は最大5人までとする。

試合中に行われる交代の回数は、制限されない。交代で退いた競技者は、他の競技者と交代してピッチに戻ることができる。

交代は、インプレーまたはアウトオブプレー中に行われ、次の条件が遵守されなければならない：

- ・ ピッチに入る競技者は、交代する競技者の番号が記された表示を頭上に掲げ、ピッチに入る意図を示す。
- ・ ピッチを出る競技者は、交代ゾーンから出る。
- ・ ピッチに入る競技者も交代ゾーンから入るが、ピッチを出る競技者が完全にタッチラインを越えて外に出るまで、ピッチに入ってはならない。
- ・ 交代要員は、出場するしないにかかわらず、審判の権限と職権の行使に従わなければならない。
- ・ 交代は、交代要員が交代する競技者の番号が記された表示を交代する競技者に渡してピッチ内に入ったときに完了し、その瞬間から、その交代要員は競技者となり、退いた競技者は競技者ではなくなる。

交代の間、時計は止まらない。

ゴールキーパーの入れ替え

ゴールキーパーは、いつでも交代要員と交代することができる。交代の間、時計は止まらない。

他のどの競技者であっても、次の条件のもとに、ゴールキーパーと交代できる：

- ・ 入れ替わる前に主審に通告される。

- ・ フィールドプレーヤーは、重傷のために他のゴールキーパーが競技できる状態にはいないときにのみ、ゴールキーパーと入れ替わることができる。この場合、ゴールキーパーが再び試合に戻ることは認められない。
- ・ 競技者は、必ずゴールキーパーのシャツを着用する。スコアシートの記録のため、フィールドプレーヤーとしてプレーしたときと同じ番号をシャツに付ける。

違反と罰則

交代が行われるとき、交代する競技者がピッチから完全に出る前に交代要員がピッチ内に入った場合、あるいは交代する競技者が交代ゾーン以外の場所からピッチを出たとき、あるいは交代の手續きに違反があった場合：

- ・ プレーを停止する。
- ・ 競技者に警告を与え、イエローカードを示す。
- ・ ハーフウェーラインの中央から、相手チームのフリーキックによってプレーを再開する。ただし、ボールがアウトオブプレーになっていた場合、競技規則に従って試合を再開するものとする。
- ・ 同じ競技者が再び交代に関する規則に違反を犯したならば、主審は、同じ進め方で、交代する競技者に警告を与え、レッドカードを示す。退場を命じられた競技者は、引き続いてその試合に復帰することはできないし、交代ベンチに着席することも許されない。退場の後、完全に2分間が経過する前に得点がない場合、2分間が経過した後補充の競技者は試合に入ることができる。

決定事項

1. 試合開始時に、両チームとも最低4人の競技者がいなければならない。このような状況で試合が開始され、試合中に、その他の競技者がピッチに到着した場合、その競技者が既にスターティングメンバーとして登録されている場合、試合の出場が許される。
2. レッドカードによって競技者が退場させられ、いずれかのチームの競技者数が3人未満(ゴールキーパーを含む)になった場合、その時点のスコアのまま試合を放棄される。

ゴールアベレージ算出用の試合の最終的なスコアは、(少なくとも3人の競技者がピッチ上にいた)チームが 10 対0で勝利したものになる。

3. 12 歳未満の競技者による試合の場合、交代要員数は最大7人まで認められる。女性の競技者による試合の場合、交代要員数は最大6人まで認められる。

第4条 競技者の用具

安全

競技者は、自分自身あるいは他の競技者に危険となるような用具や衣類(装身具を含む)を身につけてはならない。

基本的な用具

競技者が身につけなければならない基本的な用具は:

- ・ ジャージまたはシャツ
- ・ ショーツ - サーマルアンダーシャツを着用する場合は、主な色がショーツの主な色と同色とする。
- ・ 競技者が足首や足用の弾力性あるカバーの着用を承認するものとする。
- ・ 靴の使用は、認められない。
- ・ プラスチック製ゴーグル — 目の保護のためにプラスチック製ゴーグルの使用は、認められる。

ジャージまたはシャツ

- ・ すべてのシャツには、1番から99番までの背番号が付けられる。
- ・ 背番号の色は、ジャージの色と明らかに区別のつくものとする。

両チームが同色あるいは類似色のジャージまたはショーツを着用してピッチに現れた場合、ホームチームが副のユニフォームに着替えなければならない。ホームチームの設定がない場合、どちらのチームがユニフォームを着替えるかは、主審のコメントによる。

国際試合においては、小さいもの(15×7.5cm)でよいが、ショーツの前面にも番号をつけるものとする。

ゴールキーパー

- ・ それぞれのゴールキーパーは、主審から見て、他の競技者および審判と容易に区別のつく色の服装とする。
- ・ 承認を受ければ、ゴールキーパーは、ショーツの代わりに“ウォームアップパンツ”を着用してプレーすることを認める。

フィールドの競技者がゴールキーパーと入れ替わる場合、競技者が着用するゴールキーパージャージにはその競技者自身の背番号を身に付けなければならない。

決定事項

用具のその他の部分には、FIFAの承認を得ない限り、商業的メッセージを付けてはならない。

違反と罰則

本条の違反に対して：

主審は、違反をした競技者にピッチから離れて用具を正すように、または身に付けていない用具を身に付けるように指示する。その競技者は、最初に審判の1人に通知し、次いで用具が適正であることを確認された後にピッチに戻ることができる。競技者は、ボールがアウトオブプレーのときにのみ試合への復帰が認められる。

第5条 主審および第2審判

審判の権限

それぞれの試合は、2人の審判(第1と第2)によってコントロールされる。審判はピッチの設置された場所に入ったときからその場所を離れるまで、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限をもつ。

職権と任務

審判は:

- ・ 試合の開始と再開、ファウル、ペナルティー等を合図する。
- ・ 競技規則を施行する。
- ・ 違反をされたチームのアドバンテージになりそうなときは、プレーを続けさせる。しかし、そのときに予期したアドバンテージが実現しなかった場合は、そのもととなった違反を罰する。
- ・ 試合の記録を取り、試合報告書に署名をして関係機関に提出する。報告書には、試合前、試合中、あるいは試合後の、競技者、あるいはチーム役員に対する懲戒措置やその他の出来事に関する情報が含まれる。
- ・ タイムキーパーがいない場合、その任務を行う。
- ・ 競技規則のあらゆる違反に対して、あるいは外部からなんらかの妨害があった場合、試合を停止、中断、あるいは打ち切る。
- ・ 警告や退場となる違反を行った競技者に懲戒措置をとる。
- ・ 認められていない者がピッチ内に入らないようにする。
- ・ 競技者が重傷を負ったと審判が判断した場合は、試合を停止し、負傷者をピッチから運び出すようにする。
- ・ 競技者が時間を浪費していると判断した場合は、その遅延行為をやめさせる。
- ・ 競技者の負傷が軽いと主審が判断した場合は、ボールがアウトオブプレーになるまでプレーを続けさせる。
- ・ 使用するすべてのボールが第2条の要件に適合していることを確かめる。

主審の決定

プレーに関連する事実についての審判の決定は、最終である。

決定事項

1. 主審と第2審判が同時に反則の合図をし、どちらのチームを罰するかに不一致があった場合、主審の判定が優先される。
2. 主審と第2審判は、ともに競技者にイエロー、レッドカードを示すことができる。しかし、両者の間に不一致があった場合、主審の決定が優先される。
3. 第2審判が不当な干渉や不適切な行為をしたとき、主審は第2審判を任務から解任し、代替を手配し、関係機関に報告を提出する。

第6条 タイムキーパーおよび第3審判

任務

タイムキーパー1人と第3審判1人が任命される。交代ゾーンがある側のピッチの外で、ハーフウェーラインのところに座る。

タイムキーパーと第3審判のために、適切な時計(ストップウォッチ)を用意する。試合を行うピッチのあるところの協会またはクラブが、これを用意する。

タイムキーパーは:

- ・ 次により、第7条に規定された試合時間で試合が行われるようにする。
 - キックオフの後に時計(ストップウォッチ)をスタートする。
 - 得点があったとき、ペナルティーキックか直接フリーキックが与えられたとき、また競技者が時間を浪費しているとき(主審によって指示された場合)、時計(ストップウォッチ)を止める。
 - キックオフ、フリーキック、ペナルティーマークからキックの後、時計を再スタートさせる。
- ・ 競技者が退場を命じられたときの実質2分間の罰則時間を確認する。
- ・ 前半の終了、試合の終了、延長時間の終了を、審判の笛と区別できる笛またはその他の音で合図する
- ・ 3分間の休憩の後に、後半を再開する正確な時間を審判に合図する。また、延長時間の再開も同様にする。

第3審判:

第3審判は、次によりタイムキーパーを援助する。

- ・ 試合中の停止とその理由を記録する。
- ・ 交代が適切に行われることを確認し、交代の手続きにおいて問題が生じた場合、審判の笛と区別できる笛またはその他の音で合図する。
- ・ 得点した競技者の番号と得点時間を記録する。
- ・ 警告、退場を受けた競技者の番号と名前を確認する。
- ・ その他、試合に関する情報を提供する。
- ・ 交代要員の指定を受け、ベンチに座ることが許された交代要員の態度に注意を払う
- ・ 退場となった競技者が再び試合に復帰できる、あるいは交代要員を補充できることになる正確な時間をチームに通知する。
- ・ 延長時間が終了したあと、試合を終えた競技者の人数を記録する。これらの競技者だけがペナルティー方式への参加が許される(第18条)。
- ・ 主審もしくは第2審判が負傷した場合、第3審判はその審判と交代する。

決定事項

1. 国際競技においては、タイムキーパーと第3審判を必ず置かなければならない。
2. タイムキーパーまたは第3審判が不当な干渉を行ったとき、主審はこれらを解任し、代替を手配し、関係機関に報告を提出する。

第7条 試合時間

プレーの時間

試合は、1ピリオド12分間で、3ピリオド制で行われる。時間の管理は、その任務が第6条に規定されているとおり、タイムキーパーが行う。

第6条に規定されるように、時間は次のとき、止めることができる。

- ・ 得点があったとき
- ・ ペナルティーキックあるいは直接フリーキックが与えられたとき
- ・ 競技者が時間を浪費しているとき(主審によって指示された場合)

プレーの時間は、ペナルティーキックまたはフリーキックに限り、それが行うことができるように延長することができる。次のケースに当たる場合、試合を終了する。

- ・ ボールが直接ゴールに入り、得点が与えられたとき
- ・ ボールが境界線の外にけり出されたとき
- ・ ボールが守備側ゴールキーパーやゴールポスト、クロスバーあるいは砂に当たってからゴールラインを越えたとき — 得点は、有効となる。
- ・ ボールがけられて守備側ゴールキーパー以外の競技者に当たったとき。
— キックは何の効力ももたない。
- ・ ボールが守備側ゴールキーパーあるいはポストに阻まれてゴールラインを越えなかったとき

12分間のプレー時間の終了を決定するのは、タイムキーパーである。

主審は、笛あるいはエアホーンの音を聞いて、試合終了を宣言する。タイムキーパーが試合終了を決定した後は、どのような行為も有効とはならない(上記を除く)。もしボールが既にキックされていた場合、審判はタイムキーパーの笛あるいはエアホーンの前にけられたキックの結果を待って、試合を終了させなければならない。

ハーフタイムのインターバル

ハーフタイムのインターバルは、3分間である。

延長戦

試合終了時に引き分けである場合、3分間以内の延長戦を行う。延長戦後も引き分けであった場合、交互にけるペナルティーキックが行われる。同数のキックを行い、より多くの得点をあげたチームが勝者となる。

第8条 プレーの開始および再開

開始前

エンドあるいはキックオフの選択は、コイントスによって決める。トスに勝ったチームは、試合の前半にどちらのゴールを攻めるのか、あるいは試合を開始するのかどうか決定する。

前半のキックオフを行わなかったチームが後半を開始するためにキックオフをし、両チームはエンドを替え、反対のゴールを攻める。

延長戦の場合、エンドあるいはキックオフの選択のため、あらためてコイントスを行う。

PK方式を行う場合、どちらのチームが最初にキックするかを決定するため、別途コイントスを行う(第18条参照)。

キックオフ

キックオフは、プレーを開始する、または再開する方法のひとつである。

- ・ 試合開始時
- ・ 得点のあと
- ・ 後半の開始時
- ・ 延長戦が行われる場合は、その開始時

キックオフから直接得点することはできない。

進め方

- ・ すべての競技者は、ピッチの味方半分内にいる。
- ・ キックオフをするチームの相手チームは、ボールがインプレーになるまですくなくともボールから5m離れ、ボールが動き始めるまで相手ハーフに入るのを待たなければならない。
- ・ ボールは、ハーフウェーラインの中央に静止している。
- ・ 主審が合図をする。
- ・ 競技者はボールを動かさなければならない。
- ・ ボールは、空中に浮かんだとき、あるいは動いて外周が1回転したとき、インプレーとなり、その後、他の競技者はボールをキックあるいはパスすることができる。
- ・ キッカーは、他の競技者がボールに触れるまではボールに再び触れない。

一方のチームが得点をあげたあと、他方のチームがキックオフを行う。

違反と罰則

他の競技者がボールに触れる前に、キッカーがボールに再び触れた場合、フリーキックが相手チームに与えられ、キックは違反が起きた地点から行われる。

キックオフの進め方におけるその他の違反に対して、キックオフを再び行う

ドロップボール

ドロップボールは、ボールがインプレーのときに、ボールがタッチラインやゴールラインを越える直前に、競技規則に規定していない理由によって必要になった一時的停止後、試合を再開する方法である。

進め方

- ・ 審判の1人がハーフウェーラインの中央でボールをドロップする。
- ・ ボールが砂に触れたとき、プレーは再開する。

違反と罰則

次の場合、ボールを再びドロップする：

- ・ ボールが砂に触れる前に、競技者がボールに触れる。
- ・ ボールが砂に触れた後、競技者に触れずにピッチの外に出る。

第9条 ボールのインプレーおよびアウトオブプレー

ボールのアウトオブプレー

ボールは、次のときにアウトオブプレーとなる：

- ・ ボール全体がピッチの境界外エリアに触れるか、そのエリアに部分的あるいは完全にいる競技者にボールが触れる。
- ・ 主審がプレーを停止する。

ボールのインプレー

これ以外のすべての時間は、次の場合も含めて、ボールはインプレー中である：

- ・ ボールがゴールポスト、クロスバーからはね返ってピッチ内にある。
- ・ ボールがピッチ内にいる審判のいずれかに当る。
- ・ ボールがキックオフされて、空中にある。

第10条 得点の方法

得点

この競技規則に別に規定されていない限り、両ゴールポストの間とクロスバーの下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、得点となる。ただし、ゴールキーパーを含む攻撃側の競技者が手や腕を用いて、ボールを投げ、運び、あるいは意図的に押し進めた場合を除く

ゴールキーパーは：

- ・ ボールを手で投げて直接得点することはできない。もし投げ入れた場合、相手チームはゴールクリアランスを行える。
- ・ 手から離れたボールが地面に接触する前に、空中でキック(ボレーシュート)した場合は得点することはできない。
- ・ ボールを地面に落とし、足でコントロールしたとき得点することができる。

勝利チーム

試合中に得点の多かったチームを勝ちとする。両チームが同点か、共に無得点の場合は、通常の試合時間の終了した後、延長戦を行う。

延長戦が引き分けで終わった場合、試合はペナルティーマークからの交互に行うキックで決定する。この場合、同じ数のキックを行って、得点のより多い方のチームが勝者となる(ゴールデン ペナルティー)。

懲戒による退場によりチームが3人未満になった場合、試合が停止されたときの得点にかかわらず、このチームは試合の敗者であると宣言される。この場合、平均得点用の得点は、10対0で勝者の勝ちとなる。

第11条 ファウルと不正行為

ファウルと不正行為は、次のように罰する：

直接フリーキック

競技者が次の項目の反則を、不用意に、無謀に、あるいは過剰な力で犯したと主審が判断した場合、直接フリーキックを相手チームに与える：

- ・ 相手をける、またはけろうとする。
- ・ 相手をつまずかせる、またはつまずかせようとする。
- ・ 相手に飛びかかる。
- ・ 肩によるものも含めて、相手をチャージする。
- ・ 相手を打つ、または打とうとする。
- ・ 相手を押す。

次の項目の反則を犯したときも、直接フリーキックを相手チームに与える：

- ・ 相手を掴む(相手のユニフォームを引っ張ることも含む)。
- ・ 相手につばを吐きかける。
- ・ 意図的にボールを手で扱う(自分自身のペナルティーエリア内のゴールキーパーを除く)。
- ・ 危険な方法でプレーする。
- ・ 意図的にボールをプレーしていない相手の前進を妨げる。
- ・ ゴールキーパーがボールを手から放すのを阻む。
- ・ 相手あるいは審判に砂を投げる。
- ・ 競技者を警告する、あるいは退場させるためにプレーを停止する違反で、第 11 条のこれまでに規定されていないその他の違反を犯す

ペナルティーキック

競技者が自分自身のペナルティーエリア内で上記の項目の違反をボールがインプレー中に犯した場合、ボールの位置に関係なく、ペナルティーキックを与える。

ファウルを受けた競技者がペナルティーキックを行う。ただし、重傷であるときは、その競技者の交代要員が行う。反則が意図的にボールを手で扱うものであった場合、フリーキックを与えられたチームのどの競技者もキックを行うことができる。

ハーフウェーラインからのキック

次の場合も、ハーフウェーラインの中央からの直接フリーキックを相手チームに与える。

- ・ チームが、相手の攻撃を受けていない状態で、5秒を超えて、そのチームのペナルティーエリア内でボールを保持する。
- ・ 相手競技者がボールに触れることなく、ゴールキーパーが味方競技者からの意図的なパスを2度続けて手を用いる。
- ・ ゴールキーパーが手からボールを離れた後、地面に接触する前に空中でキック（ボレーシュート）する。
- ・ ゴールキーパーが自分のエリア内でボールを手で保持した後にペナルティーエリア外にでて足でボールをプレーした後、再度一度自分のエリアに戻り、ボールを手で取る（第 11 条参照）。
- ・ ゴールキーパーが足を用いて試合を再開する。

懲戒の罰則

競技者による警告となる反則

イエローカード

競技者が次の項目の反則を犯した場合、警告を与え、イエローカードを示す：

- ・ 反スポーツ的行為を犯す。
- ・ 言葉または行動によって異議を示す。
- ・ 繰り返し競技規則に違反する。
- ・ プレーの再開を遅らせる。
- ・ コーナーキック、キックイン、スローイン、フリーキックまたはゴールクリアランスでプレーを再開するとき、規定の距離を守らない。
- ・ 主審の承認を得ずにピッチに入る、または復帰する。あるいは交代の手続きに違反する。
- ・ 主審の承認を得ず意図的にピッチから離れる。
- ・ 得点の機会でない際、意図的にボールを手で扱う。

競技者による退場となる反則

レッドカード

競技者が次の項目の反則を犯した場合、退場を命じ、レッドカードを示す：

- ・ 著しく不正なプレーを犯す。
- ・ 乱暴な行為を犯す。

- ・ 相手競技者あるいはその他の者につばを吐きかける。
- ・ 相手競技者あるいはその他の者に砂を投げる。
- ・ 相手チームの得点あるいは決定的な得点の機会を阻止する(自分のペナルティーエリアにいるゴールキーパーが行ったものに適用しない)。
- ・ 攻撃的な、侮辱的な、あるいは口汚い発言や身振りをする。
- ・ 同じ試合の中で2つ目の警告を受ける。

決定事項

退場を命じられた競技者は、引き続いてその試合に復帰することはできないし、交代ベンチに着席することも許されない。交代する競技者は、レッドカードで味方競技者が退場してから完全に2分間が経過したあと、ピッチに入ることができる。

テクニカルスタッフによる警告となる違反

イエローカード

テクニカルスタッフのメンバー(例えば、監督、チームの代表、ベンチにいる競技者)が次の項目の違反を犯した場合、警告を与え、イエローカードを示す:

- ・ 相手チーム、観客、競技関係者に対して反スポーツ的行為を犯す。
- ・ 審判によって下された判定に対して言葉あるいは行動で乱暴な異議を唱える。

レッドカード

テクニカルスタッフのメンバーが次の項目の違反を犯した場合、退場を命じ、レッドカードを示す:

- ・ 乱暴な行為を犯す。
- ・ 相手競技者あるいはその他の者につばを吐きかける。
- ・ 攻撃的な、侮辱的な、あるいは口汚い発言や身振りをする。
- ・ 同じ試合の中で2つ目の警告を受ける。
- ・ 主審の承認を得ずピッチ内に入る。

これらの反則に対して、相手チームにハーフウェーラインから行われる直接フリーキックを与える。

主審は、テクニカルスタッフをレッドカードで制裁した理由を規律委員会に報告するものとする。規律委員会は制裁追加の可能性について分析する。

審判に退場を命じられたテクニカルスタッフは、試合に干渉できないよう、競技エリアから十分に離れた場所に座らせなければならない。

第12条 フリーキック

フリーキック

直接フリーキックのみ行われる。

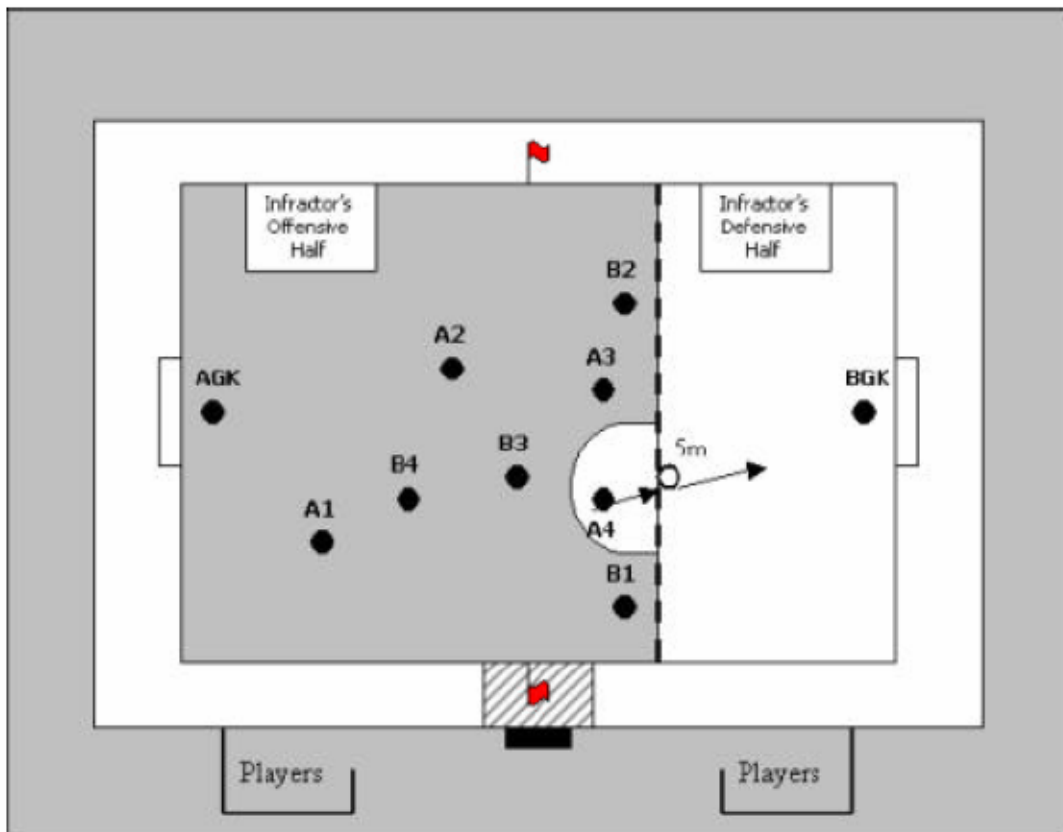
- ・ 競技者は壁をつくれない。
- ・ ファールを受けた競技者がペナルティーキックを行う。ただし、重傷であるときは、その競技者の交代要員が行う。負傷した競技者がフリーキックを行わずピッチから出る場合、試合に戻ることは認められない。
- ・ キックが行われるときボールは静止しており、キッカーは他の競技者がボールに触れるまで再びボールに触れることはできない。
- ・ 試合および延長戦終了時、フリーキックを行うために時間の追加が認められる。
- ・ フリーキックから直接オウンゴールとはならない。この場合、コーナーキックが相手チームに与えられる。
- ・ 直接フリーキックから得点することができる。

フリーキックの位置

相手ハーフで行われるフリーキック

フリーキックが違反したチームの相手ハーフで行われるとき、キッカーとゴールキーパーを除いて、他のすべての競技者の位置は、次のとおりとなる：

- ・ ピッチの中
- ・ ボールの後方また横(自分のペナルティーエリアにいることができるゴールキーパーを除いて)
- ・ ボールがインプレーになるまで少なくともボールから5m離れる



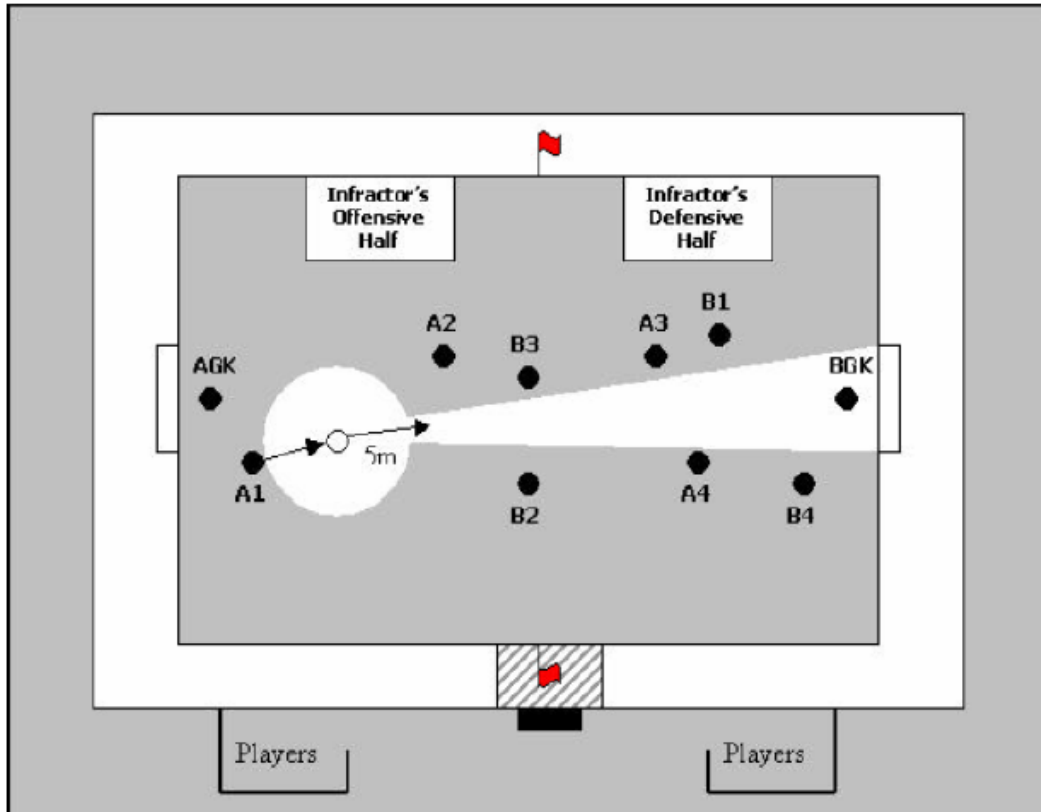
AGK = Goalkeeper Team A
 A = Player Team A
 BGK = Goalkeeper Team B
 B = Player Team B
 O = Ball

味方ハーフから行われるフリーキック

フリーキックが違反した味方ハーフで行われるとき、キッカーと守備側ゴールキーパーを除いて、他のすべての競技者の位置は、次のとおりとなる：

- ・ ピッチの中
- ・ 自分のペナルティーエリアにいることができる守備側のゴールキーパーを除いて、ボールがインプレーになるまで少なくともボールから5m 離れ、ゴールとボールの間に位置してはならない。
- ・ ボールはどの方向にもキックすることができ、ゴールキーパーも含め、味方競技者にもバックパスを行うことができる。ボールがゴールにけられた場合で(ボールと2つのゴールポストによって設定された空間にあり)、空中にある場合、地面につくまでに限り、“ノータッチ”が適用されることについて、正しく認識しなければならない。この場合、守備側のゴールキーパーだけがボールに触ることができる。それ以外の場合(ボールが上記の範囲外にある)は、いずれのゴールキーパーもボールに触ることができる。その他の場合(ボールが上記の範囲外にあ

る)で。ボールが地面に触れた場合、ボールはフリーとなり、どの競技者もボールに触れることができる。



AGK = Goalkeeper Team A
 A = Player Team A
 BGK = Goalkeeper Team B
 B = Player Team B
 ○ = Ball

進め方

- ・ ボールの位置を高くするために、キッカーは自分の足かボールを使って小さな砂の山をつくることができる。
- ・ フリーキックは、主審が笛でキックを承認した後5秒以内に行われなければならない。
- ・ キッカーは、ボールが他の競技者に触れるまで再びボールに触れることができない。
- ・ ボールは、キックされて動いたときにインプレーとなる。
- ・ キックが行われる位置と2つのゴールポストの間に囲まれたエリアにボールがキックされたとき、ボールがピッチ、守備側のゴールキーパー、いずれかのポストまたはクロスバーに触れるまで、競技者(守備側のゴールキーパーを除いて)はボールに触れることができない。

違反と罰則

攻撃側のチームの競技者が本条に違反した場合：

- ・ 違反の起きた地点から行う直接フリーキックを相手チームに与える。

守備側のチームの競技者が本条に違反した場合：

- ・ 得点になった場合は、キックを再び行わない。
- ・ 得点にならなかった場合は、その競技者のチームは違反の起きた地点から行うフリーキックを相手に与える。
- ・ 得点にならず、自分のペナルティーエリア内で違反した場合は、そのチームはペナルティーキックで罰せられる。

第13条 ペナルティーキック

ペナルティーキック

直接フリーキックとなる反則を自分のペナルティーエリアの中で、ボールがインプレー中に犯したとき、相手チームにペナルティーキックを与える。

ペナルティーキックから直接得点することができる。

試合および延長戦終了時、ペナルティーキックを行うために時間の追加が認められる。

ボールと競技者の位置

ボールは：

- ・ ペナルティーエリアラインの中央(ゴールの中央から9.0m)に置く

ペナルティーキックを行う競技者：

- ・ 重傷を負っていない限り、ファールされた競技者が行う。重傷の場合は交代要員が行う。

守備側のゴールキーパー：

- ・ ボールがけられるまで、キッカーに面して両ゴールポストの間のゴールライン上に留まる。ただし、横に動くことは認められる。

キッカー以外の競技者は、次のように位置する：

- ・ ピッチの中
- ・ ペナルティーエリアの外
- ・ ボールの後方か横
- ・ 少なくともボールから5m離れる

主審

- ・ 競技者が競技規則に基づいた位置につくまで、ペナルティーキックを行う合図をしない。
- ・ ペナルティーキックが完了したとき、判断を下す。

進め方

- ・ ペナルティーキックを行う競技者は、ボールを前方にける。
- ・ ボールが他の競技者に触れるまで、キッカーは再びボールをプレーできない。
- ・ ボールがけられて前方に移動したとき、ボールはインプレーとなる。

ペナルティーキックを通常の時間内に行う、あるいは時間を延長して行うあるいは再び行うとき、ボールが両ゴールポストの間とクロスバーの下を通過する前に、次のことがあっても得点が与えられる：

- ・ ボールが一方のあるいは両ゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーのいずれ

れか、あるいはこれらに触れる。

違反と罰則

守備競技者が本条に違反する:

- ・ 得点にならなかった場合は、キックを再び行う。
- ・ 得点になった場合は、キックを再び行わない。

キックを行う競技者の味方競技者が本条に違反する:

- ・ 得点になった場合は、キックを再び行う。
- ・ 得点にならなかった場合は、キックを再び行わない。

キックを行う競技者がボールがインプレーになったのち、競技規則に違反する:

- ・ 違反の起きた地点から行う直接フリーキックを相手チームに与える。

第14条 ボールインバウンド

ボールインバウンドは、プレーを再開する方法のひとつである。

ゴールキーパーも含めてどの競技者もボールインバウンドを行うことができる。

ボールインバウンドから直接得点することはできない。

インバウンドされたボールが直接ゴール向けに行われ、どの競技者にも触れずにゴールラインを越えたときは：

- ・ そのチーム自身のゴールにボールがキックされた場合、相手チームにコーナーキックが与えられる。
- ・ 相手チームのゴールにボールがキックされた場合、相手チームにゴールクリアランスが与えられる。

ボールインバウンドは、次のとおり与える：

- ・ 第9条の条件が適用される時。
- ・ ボールがタッチラインを越えた地点から。
- ・ 最後にボールに触れた競技者の相手競技者に対して

ボールと競技者の位置：

ボールインバウンドの種類：

- キックイン(守備側のチームの競技者は少なくともキックインを行う地点から5m離れる)。

進め方

ボールは：

- ・ ピッチの外で静止しなければならない。
- ・ プレーに戻すため、あらゆる方向にける。
- ・ キックあるいは触れられ、完全にタッチラインを越えた直後にインプレーとなる。

キックインを行う競技者は：

- ・ ボールをキックするとき、両足をタッチラインの外の地面につける。
- ・ キックインするためにボールを置いたあと、スローインを行うことはできない。
- ・ ボールを保持した後、5秒以内に行う
- ・ ボールが他の競技者に触れるまで、再びボールに触れることはできない。

- スローイン

進め方

ボールを投げ入れるとき、スローアーは：

- ・ ピッチに面している。
- ・ 両足ともタッチラインの外のグラウンドにつけている。
- ・ 両手を用いる。
- ・ 頭の後方から頭上を通してボールを投げる。
- ・ ボールを保持してから5秒以内に行う。
- ・ スローアーは、ボールが他の競技者に触れるまで、再びボールに触れることはできない。
- ・ ボールはピッチに入った直後にインプレーとなる。
- ・ スローインをするためにボールをセットしたあとにキックインをしてはならない。

違反と罰則

次の場合、直接フリーキックを相手チームに与える：

- ・ 他の競技者がボールに触れる前に、キックイン／スローインを行った競技者がボールを再びプレーしたとき、違反の起きた地点から直接フリーキックを行う。ただし、その地点がペナルティーエリア内の場合、ペナルティーキックを与える。

次の場合、相手チームの競技者が再びキックイン／スローインを行う：

- ・ キックイン／スローインを正しく行わない。
- ・ ボールがタッチラインを越えた地点以外の場所からキックイン／スローインを行う。
- ・ キックイン／スローインを行う競技者が、ボールを保持してから5秒以内に行わない。
- ・ その他、第4条に違反する。

第15条 ゴールクリアランス

ゴールクリアランスは、プレーを再開する方法のひとつである。
ゴールクリアランスから直接得点することはできない。ゴールキーパーが得点する方法については、第10条を参照のこと。

次のとき、ゴールクリアランスを与える：

- ・ ゴールラインでのボールまたは競技者について第9条の条件が適用され、第10条による得点とはならない。

進め方

- ・ 守備側チームのゴールキーパーがペナルティーエリア内の任意の地点からボールを手で投げる。
- ・ ボールが他の競技者に触れるまで、ゴールキーパーはボールを再びプレーしない。
- ・ ボールがゴールキーパーの手から離れたとき、インプレーとなる。
- ・ ゴールキーパーは一度ボールを保持した後、5秒以内にボールをインプレーにしなければならない。

違反と罰則

次の場合、ハーフウェーラインの中央からの直接フリーキックを相手チームに与える：

- ・ ゴールキーパーが5秒以上かけてゴールクリアランスを行う。
- ・ ゴールキーパーが足でゴールクリアランスを行う。

ゴールクリアランスを行い、ボールがどの競技者にも触れずに得点となった場合、得点は無効で、相手チームにゴールクリアランスが与えられる。

ゴールに入る前にボールが競技者に触れた場合、得点は有効となる。

ゴールキーパーがゴールクリアランスで味方のゴールにボールを入れた場合、ゴールは無効で、相手チームにコーナーキックを与える。

第16条 バックパスルール

- ・ ゴールキーパーが、ヘディングやインバウンドパスを含め、相手競技者に触れていない味方競技者から戻されたボールに続けて2度手や腕で触れることは認めないものとする。
- ・ 一度味方競技者からゴールキーパーにボールがパスされたならば、直ちに主審は手を頭上に上げ、最初のパスが行われたことを合図するものとする。

違反と罰則

次の場合、ハーフウェーラインからのフリーキックを相手チームに与える。

- ・ ボールがインプレーになった後、ゴールキーパーは味方競技者から(相手競技者が触れていない)ボールを2度手や腕で受ける。
- ・ その他、第16条の違反が起きる。

第17条 コーナーキック

コーナーキックは、プレーを再開する方法のひとつである。

コーナーキックから、相手チームのゴールに限り、直接得点することができる。

次のとき、コーナーキックを与える：

守備側のチームの競技者が最後にボールに触れて、ボールの全体が第9条に規定される条件下でゴールラインを越え、地面あるいはピッチ外にいる競技者に触れたときで、第10条による得点とならなかったとき。

進め方

- ・ ボールが出た地点に近い方の半径1m の仮想コーナークの中に入れてボールを正しく置く。
- ・ ボールの位置を高くするために、キッカーは自分の足かボールを使って小さな砂の山をつくることできる。
- ・ ボールがプレーされるまで、相手競技者はすくなくともボールから5m 離れる。
- ・ 攻撃側競技者がボールをける。
- ・ ボールは、けられるか触れられたときインプレーとなる。
- ・ 他の競技者がボールに触れる前に、キッカーは再びボールをプレーしない。
- ・ キックをする競技者は、ボールを保持してから5秒以内にコーナーキックをしなければならない。

違反と罰則

次の場合、相手チームによって直接フリーキックが行われる。

- ・ 他の競技者に触れる前に、コーナーキックを行った競技者がボールを再びプレーする。直接フリーキックは、違反の起きた地点から行う。

次の場合、相手チームのゴールキーパーがプレーを再開する。

- ・ コーナーキックを行う競技者が、ボールを保持してから5秒以内にコーナーキックを行わない。

コーナーキックを行い、ボールが競技者に触れずに味方ゴールに得点したとき、得点は認められず、相手チームにコーナーキックが与えられる。

コーナーキックを行い、ボールが競技者に触れて味方ゴールに得点したとき、得点が認められる。

その他の違反に対して：

コーナーキックを再び行う。

第18条 試合の勝者を決定する方法

ペナルティーマークからのキックは、3分間の延長で得点がなかったときに勝者を決定する方法である。

進め方

- ・ 主審がキックを行うゴールを選ぶ。
- ・ 主審がコインをトスし、トスに勝った主将のチームが最初のキックを行う。
- ・ 主審は、行われたキックの記録をつける。

各チーム1回ずつのペナルティーキックをけることを1シリーズとする。ペナルティーは、ゴールキーパーを含め、試合が終了時の競技者によってのみ行われる。競技者は、他のすべてのキックする資格がある競技者がペナルティーキックを行った後、次のシリーズのキックを行うことができる。新しいシリーズのキックは、キックする競技者の順番を変えて行うことができる。

- ・ 勝者を決定するまで、何回でもシリーズは繰り返される。
- ・ 同じシュート数において、多くの得点をしたチームが勝者となる。
- ・ 競技者の氏名、背番号およびキックをける順番は、ペナルティーマークからのキックの前に、それぞれのチームの主将あるいは監督から主審に伝えられる。
- ・ 退場させられた競技者には、ペナルティーマークからのキックに参加する資格がない。
- ・ 参加資格のある競技者(試合終了時にピッチ上でプレーをしていた競技者)は、ゴールキーパーと入れ替わることができる。
- ・ ペナルティーマークからのキックが行われているとき、キックに参加資格のある競技者と審判団のみがピッチの中にあることができる。
- ・ キックを行う競技者と2人のゴールキーパーを除くすべての競技者は、キックの行われている反対側のハーフの中にある。第2審判がピッチのこのエリアとその内にある競技者を管理する。
- ・ キッカー側のゴールキーパーは、プレーの進行を妨げることなくピッチの中にある。
- ・ 一方のチームが退場のために参加資格のある競技者が相手チームより少ない場合、相手チームは同数にするため、キックに参加資格のある競技者を減らさなければならない。